

国際結婚「あるある」を少しご紹介

国際結婚あるある

1 名前を1回で聞き取ってもらえない。

電話予約では100%聞き返されます。最近は旧姓でいうようにしていますが、どうしても本名を言わなければならないとき、ユエットです。というと、必ず、聞き返されます。何度か、「会社名ではなくお名前をお願いします」と言われた経験も。カタカナ名字、なんとも不便です。

2 子供がいると分かると必ずお子さんはバイリンガル?と聞かれる。

我が家の場合は残念ながらのパターンです。私の勝手な統計だと日本に住んでいてパパが日本語が流暢だとバイリンガルは難しいです。日本語が話せない旦那さんのほうが子供は確実にバイリンガルの道に行けます。我が家の場合は、祖父母も近くにいたので時々祖父母の訛りもしっかり習得しています。

3 初対面において、ほぼ必ずと言ってよいほど、夫との出会いの馴れ初めを聞かれます。

病院で先生の診察中、学校の先生は保護者面談中、至るところで聞かれます。国際結婚される方は覚悟してください。あまりにも聞かれるので、今では、長いバージョン、簡潔バージョン、どれでもいけます。

4 群馬では国際結婚が増えているとはいえ、まだまだ珍しいです。

なのでよくも悪くも目立ちます。SNSで繋がっていて夫に実際会ったことはないけど写真を見たことのある私の同級生から、旦那に会ったよ、見かけたよ、など連絡をもらいます。それをきっかけに再会することも。

国際結婚であってもなくても、違う環境で過ごしてきた2人が家族になる、それは大変なこともたくさんありますが、楽しいこともたくさんあって、かけがえのない存在です。夫婦、そして、家族で支えあい、幸せであり続けたいと思っています。